

# 京都大学の概要

## 京都大学の特色

平成29年6月に創立120年を迎えた本学は、日本を代表する総合大学として10学部に加え充実した大学院や全国一を誇る研究所群を擁し、多数の海外拠点や学術交流協定等を通じて幅広い国際ネットワークを構築しています。また、教育・研究活動を支える日本有数の充実した環境のもと、「対話を根幹とする自学自習」によって創造の精神を涵養する世界最高水準の学びの場を提供しており、多くの卒業生が学術分野のみならず、産業界、官界などさまざまな分野で活躍しています。

本学の研究の多様性とユニークさは群を抜いており、これらの先端的研究を担う研究者たちが連携して、全学体制で初年次からの基礎・教養教育を行うのが京都大学の特色です。

WEB

大学案内冊子「知と自由への誘い ～京大は、おもしろい。～」は、ホームページでご覧いただけます。  
<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/admissions/undergrad/admission>

## 京都大学の基本データ

(平成29年5月1日現在)



### 学生数

学部学生

**13,222**名

大学院生学生

[ 修士 ] [ 博士 ] [ 専門職学位 ]  
**4,945**名 **3,628**名 **699**名



### 職員数

全体

**5,508**名

教員

**2,727**名

事務職員・技術職員 等

**2,781**名



### 国際交流

外国人教職員

**401**名

外国人留学生

**2,214**名 **110**カ国・地域

大学間学術交流協定

**168**件 **50**カ国・地域

(部局間学術交流協定 786件)



### 受賞者数

ノーベル賞  
受賞者

**9**名

赤崎 勇 (2014年 物理学賞)  
山中 伸弥 (2012年 生理学・医学賞)  
小林 誠 (2008年 物理学賞)  
益川 敏英 (2008年 物理学賞)  
野依 良治 (2001年 化学賞)  
利根川 進 (1987年 生理学・医学賞)  
福井 謙一 (1981年 化学賞)  
朝永 振一郎 (1965年 物理学賞)  
湯川 秀樹 (1949年 物理学賞)



### 組織

学部・研究科等

**10** 学部

**18** 研究科

**13** 附置研究所

海外拠点

**60** 拠点 (26カ国・地域)

土地面積

**5,028** 万㎡ (国内 + インドネシア)

建物面積

**136** 万㎡

WEB

詳細は京都大学概要2017をご覧ください。  
[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ku\\_profile](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/ku_profile)

**特集 | 京都大学の変遷 ～附置研究所・センターの視点から～**

本学は、国内の大学で最も多い13の研究所・実験所と6つの研究センターを擁し、学部・研究科とともに質の高い高等教育と先端学術研究を推進してきました。今回は、化学研究所の設置以来90年にわたり時代・社会の要請・変化に応じた改組・展開を経ながら、発展・成長し続けてきた本学の附置研究所・センターを特集し、節目の年を迎える研究所の活動等をご紹介します。

**ウイルス研究所と再生医科学研究所を統合し、ウイルス・再生医科学研究所 設置**



ウイルス研究と再生組織構築研究それぞれの研究推進の強化と両分野の融合による新たな生命医学分野の開拓に向け、両研究所を統合しました。統合新研究所では、これまでの研究活動の特徴・長所を生かしつつお互いの研究を補完・協調することで、従来は困難と考えられていたダイナミックに動いている生命現象を定量的にとらえる研究分野である「生命システム研究」を創出し、「医の未来」研究の展開を目指します。

1998年 胸部疾患研究所と生体医療工学研究センターを統合し再生医科学研究所に改組・転換／1990年 生体医療工学研究センター設置／1988年 結核胸部疾患研究所を胸部疾患研究所と改称／1967年 結核研究所を結核胸部疾患研究所と改称／1956年 ウイルス研究所 設置／1941年 結核研究所 設置

**木質科学研究所と宙空電波科学研究所を統合し、生存圏研究所に改組・転換**

2000年 超高層電波研究センターを宙空電波科学研究所に改組／1991年 木材研究所を木質科学研究所と改称／1981年 超高層電波研究センター 設置／1944年 木材研究所 設置

**原子エネルギー研究所とヘリオトロン核融合研究センターを統合し、エネルギー理工学研究所に改組・転換**

1976年 ヘリオトロン核融合研究センター 設置／1971年 工学研究所を原子エネルギー研究所と改称／1941年 工学研究所 設置

**霊長類研究所 設置**

「霊長類に関する総合的研究」を目的として附置された霊長類研究所は、2017年に創立50周年を迎えました。「ヒトとは何か」あるいは「ヒトはどこから来て、どこに向かうのか」という、わたしたち人類にとって不滅の課題を総合的に研究する日本で唯一の研究所として、くらし・こころ・からだ・ゲノムからの研究とともに、国内外の研究者の活動支援や、社会への情報発信を行っています。



**化学研究所 設置**

京都大学初の研究所として附置された化学研究所は、2016年に創立90周年を迎えました。国産初の高分子材料であるビニロンの合成、人造石油の製法開発、電子顕微鏡による世界初の分子（銅フタロシアニン）の直接観察など、化学分野での歴史的業績として高く評価される成果を挙げてきました。一貫して基礎研究を重視した先駆的・先端的研究を進め、社会的要請に応える化学研究に取り組んでいます。



**東南アジア研究所と地域研究統合情報センターを統合し、東南アジア地域研究研究所 設置**



東南アジア地域研究研究所は、東南アジアに関する総合的研究の成果と世界諸地域を対象とした地域情報の蓄積、アカデミズムを超えた研究の拡がりを統合し、フィールドからの発想、多様な地域社会の活力を導き出す構想、自然環境と調和した人類社会を目指す展望を、世界にむけて発信、提言していきます。

2006年 地域研究統合情報センター設置／2004年 東南アジア研究センターを廃止・転換し、東南アジア研究所設置／1965年 東南アジア研究センター設置

2017年1月 共同利用・共同研究拠点認定(18拠点)／iPS細胞研究所 設置

2016年10月 野生動物研究センター 設置

2010年 共同利用・共同研究拠点認定(18拠点)／iPS細胞研究所 設置

2008年 野生動物研究センター 設置

2007年 こころの未来研究センター 設置

2004年 国立大学法人化

2004年 大型計算機センターと総合情報メディアセンターを統合し、学術情報メディアセンターに改組・転換

2003年 1997年 総合情報メディアセンター 設置／1969年 大型計算機センター 設置

2002年 生態学研究センター設置

1996年 放射線生物研究センター 設置

1991年 生態学研究センター設置

1976年 放射線生物研究センター 設置

1967年 原子炉実験所 設置／数理解析研究所 設置

1963年 原子炉実験所 設置／数理解析研究所 設置

1962年 経済研究所 設置

1953年 基礎物理学研究所 設置

1951年 防災研究所 設置

1949年 新制京都大学 設置

1947年 京都大学に改称

1939年 人文科学研究所 設置

1926年 防災研究所 設置

1925年 時計台竣工

本学の附置研究所・センターそれぞれの活動は、いわゆる文系並びに理系の学術分野に限らず、それらを横断する研究活動が特徴です。そして、自ら創出した世界的にもきわめて高いレベルの研究成果を、本学の教育活動や社会連携活動として社会に還元しています。

また、附置研究所・センターは、文部科学省より「共同利用・共同研究拠点」として、18の拠点認定を受けるとともに、「教育関係共同利用拠点」として、1センターの5施設が拠点認定を受けています。それぞれ、国内外の研究者コミュニティへの貢献や、他大学へ有益な教育施設環境を提供することによって学部および大学院学生の教育・研究活動に貢献しています。

なお、平成16年度から「京都大学附置研究所・センターシンポジウム(毎年1回主要都市で巡回開催)」を、平成22年6月から「京都大学丸の内セミナー(本学東京オフィスにて、毎月1回巡回で開催)」を、各研究所・センターが協力・連携して行っています。一般市民や高校生などの次世代を担う人材を対象とした知的還元事業として、毎回好評を博しています。

**1897年 京都帝国大学 創設**